

5 リスニング指導に関する学生意見の質的分析

廣瀬浩二

明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : リスニング, 速い口語体, 口頭練習, 質的分析

はじめに

連続音声における単語認識は、学習者にとって難しいことのひとつである。学習者は音声変化を伴う「速い口語体」(Gimson, 1994)を学習する必要がある。この口語体の口頭練習を行った。この指導を学生はどのように受け止めているのかに関し、自由記述から探った。

対象および方法

对象：齒科衛生士学科1年生46名

方法：学習活動終了後に、学生に授業に関する感想を記述してもらい、その自由記述のテキスト分析を行った。

結果および考察

表1 自由記述における高頻度語

語	出現回数
発音	81
英語	55
聞き取る	44
思う	43
練習	39

自由記述における出現回数の多い語は、表1の通りである。最も出現回数の多かった「発音」と共起の程度が強い語を線で結んだネットワークを作成した。(図1参照)更に、コロケーション集計を行った。「発音」とのコロケーションは、「練習」14回、「英語」13回、「自分」11回、「聞く」8回、「少し」7回となった。以下のような例がみられた。

「今回やった英語の発音練習では、毎回どこかで
つまずいたりした事がありました」

「発音が授業の中で発音練習・聞き取りの練習をしていくうちに直ってきたことが自分でも」

「強く言うところと弱く言うところのメリハリが

できないので、もっと発音練習をしたかったなと思いました。

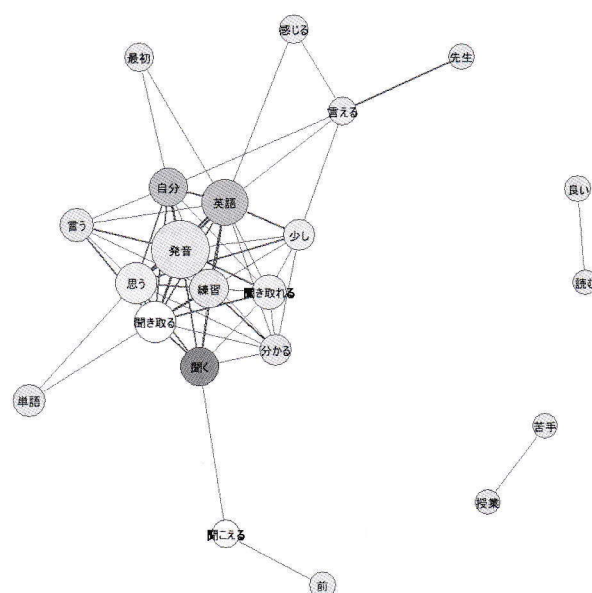


図1 「発音」と関連の強い共起ネットワーク

まとめ

練習に関しては、練習は難しいけどやりたい。練習によって、言えるようになったし、聞き取りもできるようになってきた。うまくできなかった学生も更に練習を重ねることによって、できるようになるだろうという期待感を持っている。

参考文献

- 1) Gimson, A. C. and Cruttenden, A.: Gimson's Pronunciation of English. 252-269. Edward Arnold, New York, 1994